

金剛寶戒寺便り

七月一日発行 第四号

檀信徒の皆さんこんにちは。雨が上がりると蒸し暑いのですが、雨が降っている時は肌寒くも感じます。雨の日は道路も混んでお参りに時間がかかるのですが、何故かゆつくりとしても良い気分になさせてくれるので私は雨の日が嫌いではありません。

仏教が開かれたインドにも雨季があるのですが日本の梅雨よりもひどく、その時期は外に出て鉢も出来ないのです、一か所に集まり修業（勉強会）などをしたそうで、その事を雨安居（うあんご）とか夏安居など言います。今号ではそれに習い「無財の七施」をご紹介します。

「無財の七施」とは、財が無くても誰にでも出来るお布施の事です。

『眼施』（がんせ）

思いやりのある眼差しで接する事。目は口程にモノを言うということわざもありますね。

『和顔施』（わがんせ）

笑顔は場を和ませます。笑顔に救われた経験は誰にでもあるはずです。

『言辞施』（ごんじせ）

お世辞ではなく、相手の良い処を褒めたり感謝の言葉を口にする事です。

『身施』（しんせ）

体を使って相手の為に何かをしてあげる事。ボランティア活動などもこれに当たると思

ます。

『心施』（しんせ）

まさに思いやりの心、おもてなしは和の心です。

『床座施』（しょうざせ）

年配の方や身体の不自由な方、妊婦さん等に席を譲ってあげる行為です。

『房舎施』（ぼうしゃせ）

今の時代には難しい事かもしれませんが、一晩の宿を貸してあげる事。昔はお遍路さんを泊めてあげたりしたそうですが、突然の雨に軒下を貸して差し上げるのも房舎施に当たります。

日本ではお布施イコール金銭と思いますが、「無財の七施」のお話が好きで御法事の時には良くお話をさせて頂くのでご存じの方も多いと思いますが、どうぞご自身の出来る事から一つでも初めてみてください。気持ちの良いものですよ。

先月中旬地区のお寺のご住職さんと高野山開創千二百年団体参拝の打ち合わせをしました。各お寺個々で団参を募り高野山に上がるお寺が出た為、予定よりも多く、金剛宝戒寺からは約三十五名の方と参拝出来るようになりました。六月三十一日現在において二十五名の方が希望されておりますので、まだ十名ほど募集しております。ご縁のある方がおられましたらお声掛けください。（決し

て無理はしないで下さい）

早いもので来月は八月、盆月です。数年前までは盆明けにお寺で供養盆踊りをしていましたがお世話をした下さる方々の高齢化により休止しておりました。今年から八月二十一日の盆月千巻心経（お数珠繰り）と合わせて供養盆踊りを再開したいと計画しています。お時間等は次号にてお知らせいたしますので初盆のお家はもちろん一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

また八月三日（日曜日）の午前六時半より小一時間、お寺の草取り並びに大掃除を行います。以前は上野のお檀家さんを中心にお願いでいたしましたが、今回からは幅広く募りました。決して強制ではありませんが、お時間の都合のつく方がいらつしやいご協力お願い致します。普段の月参りではなかなか御顔を会わせる事の出来ない、若い方（息子さんやお嫁さん）等のご協力を心待ちにしております。

サッカーワールドカップはまだ続いていますが、日本代表は残念な結果でした。一流のスポーツ選手のインタビューを聞いていると決して弱気な発言やネガティブな言葉を言いませんね。言葉の持つ力を知っているからでしょう。我が宗派を真言宗と名付けたお大師様は凄いなと思います。「和顔愛語」普段の言葉使いにも気をつけます。